

## リスク評価作業のイメージ（案）

## リスクレベルの評価

## ステップ1

（測定値と評価値の比較）

→ C<sub>p</sub> 値（TWA 8hr.）、C<sub>s</sub> 値  
（TWA 15min.）と以下の評価値との比較

- ・ 1次評価値（RL（10<sup>-4</sup>））
- ・ 2次評価値（TLV）

↓  
比較結果により以下の作業を進める。

- ① C<sub>p</sub> 値、C<sub>s</sub> 値の最大値（又は上方信頼限界値（UCL））が2次評価値を超える場合（発がん性物質にあってはC<sub>p</sub> 値の最大値が1次評価値を超える場合）  
→ステップ2へ進む
- ② C<sub>p</sub> 値、C<sub>s</sub> 値の最大値又はUCLが2次評価値未満の場合（発がん性物質にあってはC<sub>p</sub> 値の最大値が1次評価値未満の場合）  
→現時点でのリスクは低いとして作業を終える。  
※ 事業場には、自らのリスク評価に基づき適切な管理を要請。

## 要因分析

## ステップ2

（C<sub>p</sub> 又はUCLが評価値を超えたものの原因工程の特定）

→ C<sub>p</sub> 値又はUCLが評価値を超えた作業者の所属する事業場において測定されたC<sub>s</sub> 値からの原因工程を分析  
↓  
原因と推測される工程の作業環境をCa値（A測定）を用い分析

## ステップ3

（原因工程にかかるC<sub>s</sub> 値、Ca値の分析）

→ステップ2で原因工程とされた工程と同様の工程を有する他の事業場について採られたCA値、C<sub>s</sub> 値を評価。  
※ 可能であれば、当該工程にかかるとC<sub>p</sub> 値、CA値、C<sub>s</sub> 値の統計処理値（95パーセンタイルでの上方信頼限界値）を行う。

## ステップ4

（要因分析）

→ステップ3を踏まえ、高いばく露の要因を評価し、以下のどの区分に入るかを分析

- ① 特定作業者の作業実態に起因するもの
- ② 特定事業場の作業工程、作業環境に起因するもの
- ③ 作業工程に共通して問題

## 規制措置の要否判定

## ステップ5

（要因分析結果毎の対応）  
→ステップ4の分析結果を踏まえ以下を判定

- ① 特定作業者の作業実態に起因すると推定されるもの  
↓  
当該作業者の作業改善を指導  
※ 但し、他の事業場においても同様の作業者がでる恐れがあるので、必要があればその対策を検討。
- ② 特定事業場の作業工程、作業環境に起因すると推定されるもの  
↓  
事業場の作業工程・環境改善を監督・指導
- ③ 作業工程に共通した問題と推定されるもの  
↓  
当該作業工程についてばく露防止措置・規制の導入を指示